

編纂所だより

大阪市史編纂所（発行）

平成18年6月発行

第26号

大阪市史料調査会（編集）

〒550-0014 大阪市西区北堀江4-3-2

大阪市立中央図書館内

06-6539-3333

見上げてごらん、夜の星を

大阪を「木のない都」といったのは「小説の鬼」宇野浩二^{うのこうじ}。宗右衛門町の十軒路地^{そうえもんちょうじゅっけんろじ}に育った彼は、数々の大阪を舞台にした小説・随筆を書きました。昭和18年（1943）、彼は『随筆大阪』という本に、「大阪を見直す」と題した一文を寄せています。

私が、実は大阪に住んでいた間は（中略）大阪の有り難みがよく分からなかった。しかし数年前から（中略）大阪独特のものの良さがわかり、それが素晴らしいものであることが次第にわかって来た。しかし、今の私の心の中は別として大阪と大阪人から見れば、異邦人^{いほうじん}のようなものである。しかし、（中略）私は、大阪と大阪の人を、抽象的ではあるかも知れないが、実に愛している。（中略）大阪の人よ、大阪は、大阪の人は、仮りに東京や東京の人に劣るところが幾つかあるとしても、東京や東京の人より勝れたところを、東京や東京の人の持たないものを、数多く持っていることを自覚したまえ。そうして、このことは、大阪生まれでないが、大阪と大阪の人を愛する私自身にもいいたいのである。

宇野風にいえば、現在大阪は「星のない都」です。深夜まで煌々とあかりが灯り、摩天楼^{まてんろう}は空の視界を妨げています。夜空を仰いだのはいつのことだったでしょう。

江戸時代、大坂には





すぐれた町人学者がいました。間重富（^{はざましげとみ} 1756～1816、号は長涯^{ちやうがい}）もその一人。長堀川に架かる富田屋橋北詰で生れた重富は、本業である質屋を営むかたわら、天文学に興味を持ち、天文学の第一人者であった麻田剛立^{あさだごうりゆう}の門をたたきました。このとき同門には高橋至時^{たかはしよしとき}、山片蟠桃^{やまがたばんとう}らがいました。重富は町人の身分ながら幕府の天文台で活躍し、日本国中で使う毎年の暦（月の満ち欠けで月日を決める^{たいいん} 太陰太陽暦）の作成をまかされました。大阪の堀江にある自宅前の橋の上で天体観測するときには、奉行所は彼のために橋を封鎖しました。現在、彼が観測をおこなった場所には、「間長涯天文観測の地」の石碑が建っています。間重富が生れて、今年でちょうど250年。

電気科学館にあったプラネタリウム 宇野の「木のない都」に対して、織田作之助^{おださくのすけ}は「木の都」を記しました。織田にとって、忘れられない大阪には、常に木がありました。さらに織田には「星」もありました。四ツ橋の電気科学館です。小説「わが町」の主人公「ベンゲットのたあやん」こと佐渡島他吉^{さどがしまたきち}は、電気科学館のプラネタリウムで、天井に映る南十字星を見ながら、波乱の生涯を閉じます。間重富の偉業をたたえて、四ツ橋に電気科学館が建てられたのは、昭和12年（1937）。「東洋一のプラネタリウム」ができて、来年で70年。重富生誕250年と合わせて、これを機会にもう一度、大阪の夜空を眺めてみましょう。大阪の歴史とあたらしい街の姿が、うかんでくるかもしれませんよ。（古川武志）

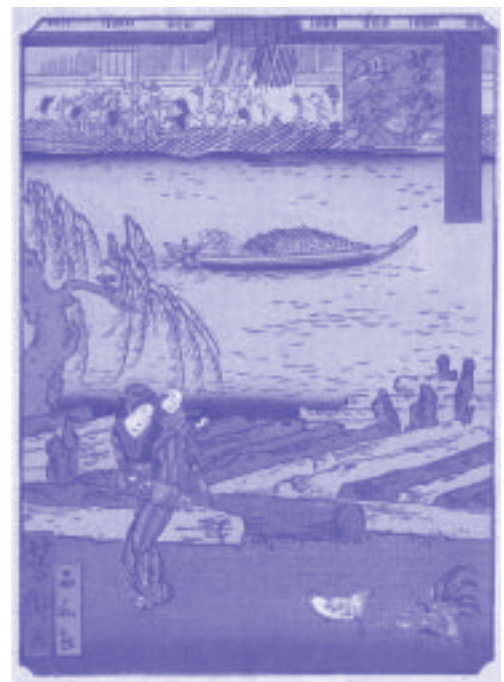
* 今年発行の『大阪の歴史』68号で、「間重富特集」を予定しています。

土佐藩ゆかりの地名

今年の大河ドラマの主人公千代^{ちよ}の夫、山内一豊^{やまうちかつとよ}は、だんだん出世をして最後は土佐国24万石の大名になり、以後明治維新まで、その子孫が土佐藩をおさめることになります。ところで大阪市のなかでも西区周辺には、土佐藩にゆかりのある地名がたくさんあります。

たとえば西区と北区をへだてる土佐堀川。一豊の時代から、この川の南岸、現在の土佐堀1丁目から西側一帯に土佐商人が集まり、土佐座と呼ばれていました（ちなみに阿波商人の集まる所を阿波座といい、現在でも地名として残っています）。この土佐座にちなんで土佐堀川と名付けられたのです。

市立中央図書館の西・北は江戸時代には、土佐藩の蔵屋敷でした。蔵屋敷のなかにまつられていたお稲荷さんのほこらが、現在の土佐稲荷のもとになっ



材木がならぶ江戸時代の長堀
（「浪花百景」）

ています。図書館前を南北にはしる新なにわ筋と長堀通の交差点を鰹座橋かつおざばしといいま
す。長堀通には昔、長堀川という運河が流れていました。この運河には四ツ橋のほ
か、問屋橋といやばし、白髪橋しらがばし、鰹座橋などといった橋がかかっていた。この鰹座橋の南詰
めに土佐藩の蔵屋敷があったのです。蔵屋敷には材木・鰹節かつおぶし・半紙・砂糖などの特産
品が土佐から廻送されました。橋の北詰には鰹節問屋が建ち並んでいたのも、鰹座橋
です。また鰹座橋にほどちかい白髪橋は、高知県本山町白髪山もとやまちょうからつけられた名称で
す。土佐藩では白髪山の木材を伐採し、吉野川水運を利用して阿波国に流し、吉野川
河口の撫養むやの港から大坂の蔵屋敷に廻送しました。

大坂に着いた材木は、木津川を経て、立売堀川・長堀川・道頓堀川などに運び込ま
れました。江戸時代、多くの藩が中之島周辺に蔵屋敷を構えたなかで、土佐藩が長堀
川を東に入った場所を選んだのも、木材を管理するためでした。江戸時代はじめの
元和・寛永期（1615～1644）、大坂は空前の建築ラッシュで、徳川幕府によ
る大坂城の再築はもとより、船場を中心とする城下町の再建、そして拡張のため、材
木の需要はうなぎ登りでした。こうした需要を支えたのが、土佐藩だったのです。土
佐藩は寛永年間に幕府に出願し、立売堀に材木市場を開きます。それまでは「付買」
とって、あらかじめ価格を定めて材木を売りさばいていたのですが、よりたくさん
の顧客を集めるため市を開くことをはじめたのです。材木という商品は、その寸法か
ら店売が困難です。木津とよばれる貯木場に問屋と仲買が立って、材木を見ながら売
買の交渉をしたことから、「立売」とよばれ、やがて地名として定着します。

ちなみに「立売堀」と書いて「いたちぼり」と読む由来は普通次のように説明され

○大阪市史史料第67輯

『会計官日誌』

発売中（1冊1,800円＋送料290円）

明治維新のとき、新政府の成立を財政面で支え
た、大坂商人たちの活動がわかる史料です。

取り扱い書店 旭屋書店（梅田本店・天王寺MIO
店・京都店）、ジュンク堂書店（大阪本店・難波
店）、ユーゴー書店（阿倍野店）、中之島書店
（大阪市役所地下）、四天王寺書林、大阪歴史博
物館（なお、書店では消費税が加算されます）
通信販売も受けつけています。郵便局そなえつけの、
青色の郵便振替用紙でご送金ください。

口座番号 00930-9-82241

加入者名 大阪市史料調査会

備考欄にご購入希望の号数と冊数をご記入ください。
そのほか、くわしいことは、お問い合わせください。
また、大阪市史編纂所で直接販売もしています。

大阪市西区北堀江4-3-2 大阪市立中央図書館3階
（地下鉄千日前線・鶴見緑地線西長堀駅下車）

電話06-6539-3333・FAX06-6539-3330

ます。大阪の陣で伊達家がこ
こを陣所としたことから伊達
（だて）堀と言ったのが、漢
字の発音につられて「いたち
ぼり」と発音するようになった。
のち、材木市が立つよう
になって表記が「伊達」から
「立売」に変わったが、発音
は「いたちぼり」が残った、
というものです。おそらく、
実際はもっと単純な事であっ
たと思います。それは材木の
市が立つ場という意味で市立
堀（いちたちぼり）と呼ばれ
たのが、夕行を整理して「い
たちぼり」と発音するようにな
ったというものです。みな
さんはどうお考えですか。

（野高宏之）

大阪ホテル（１９０４～１９２０年ごろ）

大阪ホテルは中之島にあったホテルです。現在^{とうようとうじびじゅつかん}東洋陶磁美術館の建っている付近になります。左側の２階建ての建物が大阪ホテルですが、実はこの大阪ホテルは２代目の大阪ホテルです。初代の大阪ホテルは同じ場所にあり、明治２８年（１８９５）に建てられました。それまでは自由亭ホテルという名前でしたが、改装新築にあたって名前を変えたのです。明治３２年に大阪クラブに売却され、大阪クラブホテルと名称を改めました。大阪一の格式を誇ったホテルでしたが、明治３４年（１９０１）１２月に全焼してしまいました。

当時は明治３６年（１９０３）に第五回内国勸業博覧会が予定されていたので、すぐさま再建が始まりました。第五回内国博覧会が開幕する前の、明治３６年１月に新築開業することができました。このときホテルの名称は大阪ホテルに戻されました。この２代目の大阪ホテルも大正１１年（１９２２）の火事で全焼してしまいました。それまでの約１９年間で写真のホテルの全盛期です。初代の大阪ホテル同様に、大阪の^{げいひんかん}迎賓館的役割をになっていました。

写真の右側にある建物は、^{おおさかぎんこうしゅうかいしよ}大阪銀行集会所で、^{おおさかぎんこうきょうかい}大阪銀行協会が明治３７年に建設したものです。その近くに白いものが見えますが、これは「エルメレンスの碑」というものです。エルメレンスは明治３年（１８７０）から、明治１０年まで大阪病院に勤務したオランダ人医師で、大阪の近代医療に大きな足跡を残した人です。勤務契約が満了したあと、オランダに帰る途中にフランスへ旅行に行ったのですが、そこで病死してしまいました。明治１３年のことです。その知らせが大阪に伝わると、エルメレンスを慕う人たちが、その功績をたたえるために資金を出しあって碑を建てました。



明治１４年（１８８１）にできたのが、写真に写っているものです。この碑は現在は、大阪大学の管理になっていて、場所も変わっています。（堀田暁生）

▼ 大阪市史編纂所では、所の仕事の紹介や、刊行物の案内などのため、ホームページを開設しています。アドレスは下記のとおりです。または主だった検索エンジンで、「大阪市史編纂所（おおさかししへんさんしょ）」でおさがしてください。

<http://www.oml.city.osaka.jp/hensansho/>